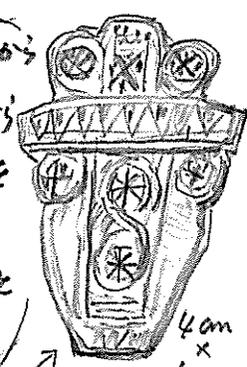


— 錦織 佳代子 —

捜し物名人 GORIさん

結婚前、札幌から帰ったGORIさんが、木彫りのフローターをもらった。裏にBIKKYと彫ってある。



テレビで「砂澤ビッキ展」旭川美術館で開催中と伝えた。ダイナミックな木彫の大作、繊細な文様を彫り込んだ。エッセイなど、ビギナーの親は

4cm x 6cm アイヌ。黒地に緑青色。

翌朝、目を覚ますと、「机の上を見て！」とGORI。「エッ、フローター!!」その朝、早く起きたGORIさん、大きな木の下をもう一度さかして「あった!!」草原の色と同じ。わかりにくかった。

以来50年余り、GORIさんは今も私の「ナイ、ナイ、どこか、おかしい、ここにいったのに」の困ったさんに付き合ってくれ、不思議とすぐ見つけてくれる。ありがとう。最近ますます出番が多いです。



今日はフローター?

大根とちくわの煮物

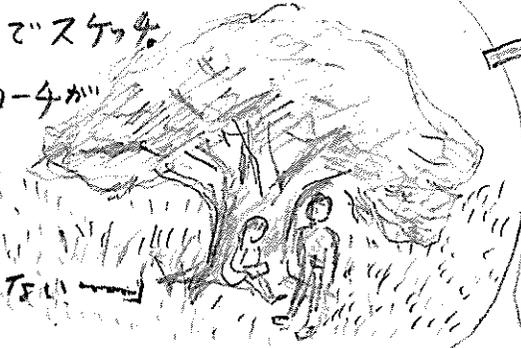
(2人) 大根300g ちくわ2本 2cmの斜め切り、人参1/2本 水300cc

- ① 大き目のボウルに水、大根、人参を入れふんわりラップ。600W 7分レンジで水を切る
- ② ナベに水300cc、めんつゆ(2倍濃縮)90ml、すりん大さじ2 にちくわ、①を入れ中火で水、半分くらいになよまで煮る。器にもり、小ネギちらす

私好みの味に

新婚旅行はリズックして信州高原の旅。仙人小屋に泊まったとき牧場の大きな木の下でスケッチ

「あら、胸につけたフローターがない……」二人で草の中をさがしまわった。「無い、やつはいるない……」



近所に黄色いミモザの花が背の高い木にいっぱい咲いていた。尾道美術館の前に大きなミモザの木がある。また行きたい!



読書ノート

ことば言始め 池内紀著 亜紀書房 2019年6月に著者から恵贈された本。時々の手にとる。紙の色も活字の配列も心なごむ。緑色の帯に「なじみのことば」をもう一度たずねる。「虫かいい」「とちる」「ヒョンはね」「村度」。よく知るようだが実は遠いその意味を、辞書から記憶から手繰り寄せ、味わい直してみる。言葉の確かな手紙が残る教養エッセイ——とある。——うるさい、かきれる、アルペヴェット、ちよい役、のうま、虫かいい……

「和菓子語」もうなづかされる。——駅前のオアシスで豆大福を見つけた。久しぶりの和菓子。それから次々と思いつく。どうも焼、秋の彼岸はおはぎ別名ほいたもち。(花の牡丹にあやかって)。草もち、よもぎもち、花見団子、わらびもち、ちまき、かしわもち、葛もち、水まんじゅう……栗まんじゅう、栗きんとん、ささ団子、ほお葉巻……

「和菓子の特徴は季節と強く結びついていることだ」

「日常の嗜好品がこれほど風土なり季候なりとかがわっているケースは、世界的に珍しい気がする。ケーキやフッキーにはおぼろ見られない特徴がある。」「とちる」のところは、安倍内閣の女性防衛大臣が出席、続いて「前代未聞の認知症的な新アメリカ大統領のとうへま、先ず馬区けつけいっしょにゴルフする御仁にたの、早とちりもいいとこなのだ。」 わたしは大まかになつて、

3月8日、GORIさんと今治市玉川近代美術館へ

地球は破滅してしまおうのか、地震大雨大雪早はつ火災……そして戦争、私たちは何をすればいい? 3月11日、東日本大地震発生から15年、あの夜遅く、仙台の娘の無事確認できた。体中の力が抜けてほっとした。

塩根に クリム色の小さな花 「もっさりバウカ咲いてる」と GORIさん 3月1日早稲刈り

「広重」展を觀に、開館40周年記念 館蔵品企画展 東海道五十三次